

社会科授業で SDGs をどう扱うか

～地理的分野の取り組み～

村山 明生* 福田 仁**

鳥取大学附属中学校 社会科

E-mail: * murayama524@tottori-u.ac.jp

** fukutaht@tottori-u.ac.jp

Akio MURAYAMA Hitoshi FUKUTA (Tottori University Junior High School): How to treat SDGs in classes of social studies. — Engagements in geography area

要旨 — SDGs の取り組みは新型コロナウイルス感染症拡大の影響を否が応にも受けているが、ピンチをチャンスとばかりに持続可能な復興（グリーンリカバリー）が叫ばれている。そのような中、SDGs の授業を地理的分野の授業でどのように取り上げるのか実践研究を行った。日本の諸地域については、時間・空間認識を育てる学習づくりを心がけた。

キーワード — SDGs, アフリカ州, アジア州, 時間・空間認識, 中国・四国地方

Abstract — Expansion of COVID-19 inevitably negatively influenced the implementation of SDGs. On the other hand, taking this as an opportunity, sustainable recovery (Green Recovery) has gained attention. We studied how we should take SDGs into classes of a geography area in social studies. We especially tried to raise temporal and spacial recongnitions in learning various local areas in Japan.

Key words — SDGs, Africa, Asia, recognition of time and space perception, Chugoku・Sikoku

1. はじめに

1. 1. SDGs への関心の高まり

街頭では商業施設のアーケードに SDGs の旗が掲げられているのを見かけたり、新聞やテレビでは世界を変えるための 17 の目標をよく目にしたりするようになった。官公庁や企業や大学のホームページの画面にも当たり前のように SDGs の取り組みが紹介されている。

SDGs とは、2015 年 9 月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030」に記載された 2030 年までの国際目標である。

2020 年は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大で世界経済は大混乱し、人々の行動様式や価値観が大きく変わった。2021 年もその混乱が続き、様々な不安要素が渦巻いてくだろう。しかし、一方でアフターコロナに向けて、グリーンリカバリーが叫ばれているのも事実である。落ち込んだ世界経済の復興や SDGs がターゲットに据える環境問題や社会課題の解決に向けた動きが加速していくことが予想されている。

1. 2. 社会的な見方・考え方を働かせるとは

令和 3 年度から全面実施の新中学校学習指導要領では、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成することが基本的なねらいの一つになっている。学習指導の改善充実等については、「主体的・対話的で深い学び」の実現や教材や教育環境の充実が謳われている。

社会科では、「広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する」という目標がある。

この目標を達成する前段として、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して」とある。社会的な見方・考え方は、地理歴史科・公民科の特質に応じた見方・考え方の総称であり、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法(考え方)」である。

中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説「社会科」の第 1 章総説 1 改訂の経緯及び基本

方針 (2)改訂の基本方針 ③「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の推進のオには次のように述べられている。

深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」という教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。

そこで、地理的分野において、SDGsの17の目標が「社会的な見方・考え方」に重ね合わせられるのではと考え、授業づくりを行うことにした。

2. 第1学年の取り組み

2.1. アフリカ州(2時間目)2020/9/9 実施

めあて アフリカの現状に関心をもつことができる。

(本授業で、生徒たちに初めて SDGs を紹介)

- ① AU とは(EU はよく耳にしますね。)
- ② 「アフリカの抱える問題って何だろう？」
※ひとしきり、生徒に発表させたあとで、
- ③ SDGs カードを1から順番に提示していく。
※1つの目標ごとに「アフリカにはこの問題があると思う人」と問いかけ挙手をさせる。



- ④ SDGs の説明(知っている生徒がいれば説明させる。)
- ⑤ 事例紹介その1
「新聞切り抜き 2020/9/6「サブサハラパッタ大発生」
- ⑥ 事例紹介その2
「カカオ豆は適正価格で取引されているのだろうか?」(フェアトレードについて説明する。)



2020/09/06 朝日新聞より

図1 授業で扱った新聞記事

2.2. アジア州(5時間目)2020/9/30 実施

めあて 新型コロナウイルスの影響をアジアを例に考えよう。

- ① SDGs って何でしたか?
- ② 新型コロナウイルスの影響がいろいろなところで出ていますが……
(カードを黒板に貼りつつ、影響が出ていると思うものに挙手させ、なぜそう思ったのか発表させる。)



図2 SDGsの17の目標

- ③ 黒板にカードを全部貼り終えてから、「1~6, 7~12, 13~17のそれぞれキーワードを考えてみよう。」(人権・産業/経済・環境など)
- ④ 持続可能な復興(グリーンリカバリー)について世界の動きを紹介する。
(中国のリーダー習近平国家主席は2060年までに二酸化炭素を0にすると発表した等)
(折しも日本では、新総理が誕生したが……)
(その後、2020/10/26所信表明演説で2050年までのカーボンニュートラルを表明した。)

2.3. SDGs アンケートを実施

授業を終えて、定期テスト後(2020/11/24)

に全クラス（138名）を対象に以下のアンケートを実施した。

SDGsに関するアンケート

組番 名前 _____

1 あなたは、SDGsについて人に説明することができますか。(5段階)

できる だいたいできる 少ししかできない 全くできない

2 あなたは、SDGsに興味がありますか。(5段階)

とても興味がある まあまあ興味がある ほとんどない 全くない

3 あなたは、SDGsに対する具体的な取り組み（事例）としてどんな取り組みを思い浮かべますか。具体的な取り組み（事例）を挙げてください。(複数回答)

4 SDGsを達成するためには、どんなことが必要又はどんなことが大切だと思いますか。あなたの考えを教えてください。

図3 SDGsに関するアンケート

集計については、前期評定で上位者(評定5, 4), 中位者(評定3), 下位者(評定2, 1)に分けて集計を行った。

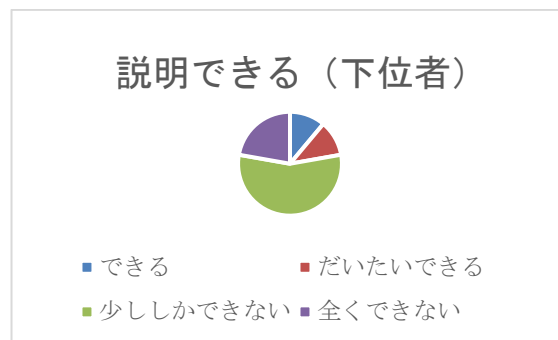
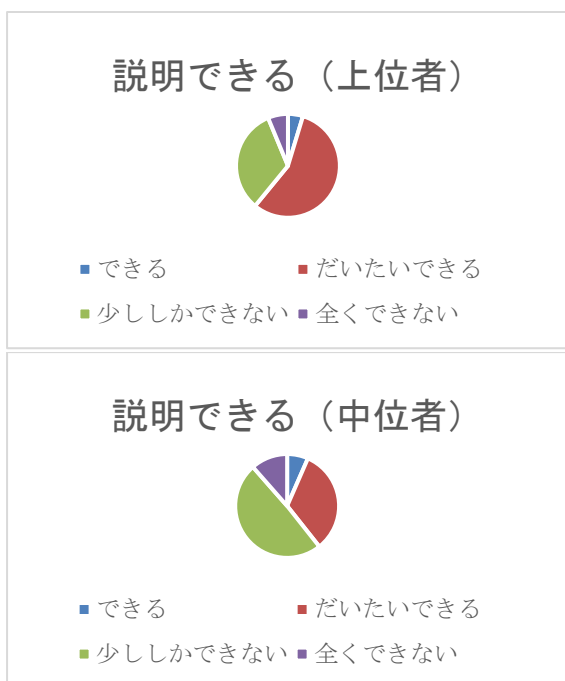
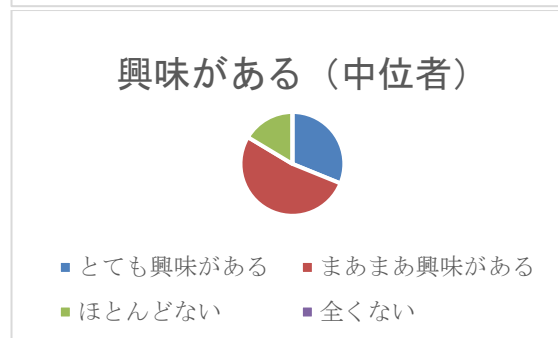
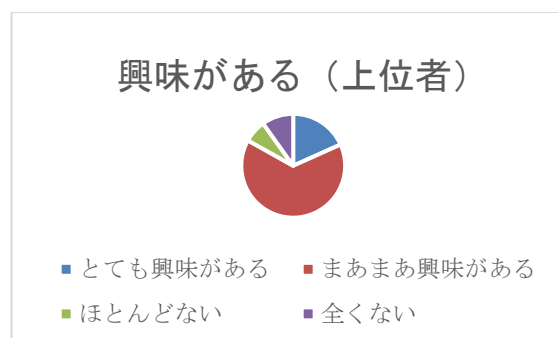


図4 SDGsについて人に説明できる(評定別)

設問1「あなたはSDGsについて、人に説明することができますか。」については、上位者ほど説明することができるかと答えた生徒割合が高く、社会科の評定と比例していた。

しかし、設問2「あなたは、SDGsに興味がありますか。」については、「とても興味がある」と回答した生徒割合は、上位者が20%に対して中位者が31%だった。社会科の評定の高さとSDGsに対する関心の高さの相関については、明確な関係が見られなかった。



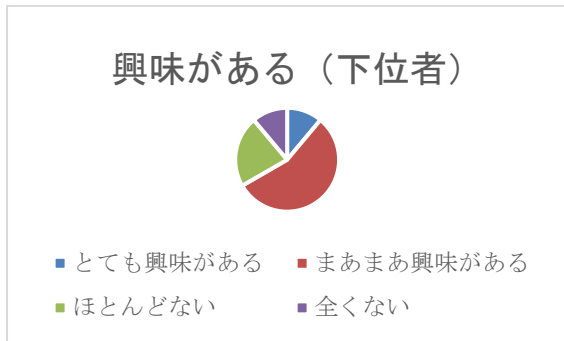


図5 SDGsに興味がある(評定別)

2.4. まとめ

全体を通して言えることは、SDGsの授業で、その社会的な事象が17の目標のどれに相当するのかわかるという判断そのものが、今日的な社会課題の解決に向けての視点や方法(考え方)につながるのではないかと考える。それはまさに、現代社会の形成者としての資質や能力の基礎を育成できるのではないかと考えている。

SDGsの問題は、17の目標が思考ツールのような働きがあるため、全生徒にわかりやすい授業展開になるのではないかと考えられる。2年、3年と継続的に学習していくことが重要になっていくと思われるので、今後の授業改善、授業実践に努めていきたい。

3. 第2学年の取り組み

3.1. はじめに

昨年度は持続可能な開発のための教育の視点に立った学習指導を進め、教材(学習課題、学習内容)を時間的・空間的につなげることに重点を置いた。課題の探究・解決の過程で持続可能な社会づくりに関する課題を見つけ、それらを解決するための必要な能力や態度を身に付けることをねらいとし、地理的分野の世界の諸地域の学習において、時間・空間認識を育てる探究的な学習を取り入れた授業実践を行った。

3.2. 時間・空間認識を育てる学習

米田豊(2019)は、時間・空間認識を育てる探究的な授業の前提として、生徒自身が探究することができるキーワードとして、「学習課題」、「内容知と方法知の習得」、「カリキュラムデザイン」の3

つを挙げている。中でも、「内容知と方法知の習得」については、「生きて働く知識」を内容知、「内容知の活用方法」を方法知とし、それらの習得が必須であり、この要求に応えることができる授業が探究的な授業であるとしている。そのため、生徒自身が学習課題を設定したり、解決したい学習課題を発見したりすることが大切であると考えている。そして、その解決に向けて思考方法を生徒自身が習得できる授業展開を構築することがポイントとなる。このような授業展開を行うことで、社会的な見方・考え方を習得させ、主体的に学習課題を解決する意欲や学習したことを実生活に生かそうとする態度が育まれることにつながると考えている。

地理的分野の学習では、地域の過去や現在を比較することを通して、社会事象へ変化をとらえることができる。社会の変化が激しい現代において今の状況からこれからどう変化し、持続可能な社会をつくるにはどうしたらよいか考えることができる。

また、地形や気候などの自然環境の特色をとらえたり、地域による違いを見つけたりすることで空間的な広がりや認識を育てることができると考える。

3.3. 授業実践

今年度は地理的分野、日本の諸地域の中国・四国地方の学習で授業実践を行った。

①中国・四国地方の単元構成(全5時間)

	学習テーマ
第1時	自然環境
第2時	交通網の整備と人々の生活
第3時	瀬戸内と南四国の産業
第4・5時	鳥取県の未来を考える

②第4・5時の授業について

中国・四国地方のまとめとして、身近な地域である鳥取県の未来を考える時間を設定した。

昨年度のアジア州での授業実践では、課題を教師が提示して課題解決にむけたアイデアを生徒に考えさせたが、今年度は課題を教師が提示

するのでなく、生徒自らが課題を見出し、その解決にむけたアイデアを考える授業とした。これは、主体的に学習課題を解決する意欲や学習したことを実際の生活に生かそうとする態度を養うことをねらいとしている。

鳥取県が抱える課題を見出し、その課題を解決するためのアイデアを考える授業とした。課題解決のアイデアは一時的なことでなく、持続的なものとするを重要視し、持続可能な社会の在り方について身近な鳥取県で考えることで、自分事として捉えさせるようにした。

また、一般社団法人 Think the Earth が主催しているSDGs for Schoolから『未来を変えるアイデアブック』を提供していただき、授業のたびに生徒に配布し、どのような取り組みがされているかなどを紹介した。他団体とも連携して、生徒の関心を高めながら、授業を行った。

授業の内容としては、鳥取県の課題を見つけ、その課題を解決するためのアイデアを考え、以下のようなワークシート(図 6)に記入し、提案用のワークシート(図 7)にまとめるという内容である。

SDGs の視点を持たせるために、ワークシートに 17 のゴールのどれに関係するかをチェックする欄を設けた。

図 6 ワークシート

生徒の多くが鳥取県の課題として、多くが人口減少・過疎化をあげており、そこから派生する産業や経済に関する事象まで広げて捉えていた。

解決のアイデアとしては、鳥取を都市部のように企業や商業施設を誘致し、人を呼び込み、経済を豊かにするなどの内容のものが多くあった。さらには、鳥取県の自然環境の良さを生かしつつ、

都市部にはないものを強化していくなどのアイデアも多く見られた。

生徒の様子では、一時的な解決方法ではなく、持続可能なものにするためにどうしたら良いかという事で頭を悩ませていた。また、一方を解決しようとしたら、もう一方がうまくいかないなど、試行錯誤しながら、アイデアを考える姿が見られた。

また、鳥取県の状況と似た他県の取り組みを参考にして、課題解決に向かう生徒も見られ、他地域とのつながりを意識し、空間的な広がりを持ち、学習に取り組んでいた。

図 7 生徒が作成した提案用ワークシート

3.4. 成果と課題

今年度は、生徒自らが課題を見出し、その課題を解決することに重点を置いた。身近な地域ということもあり、生徒は生活体験や既習事項を活用しながら、学習に取り組む姿が見られた。

全クラスを対象にアンケート(表 1)を実施した。

表1 アンケート結果

①話し合い活動は好きだ

あてはまる	少しあてはまる	あまにあてはまらない	あてはまらない
55%	32%	12%	1%

②いろいろな角度や立場にたって、物事を考えることができる

あてはまる	少しあてはまる	あまにあてはまらない	あてはまらない
24%	53%	21%	2%

③自分の考えを整理して説明することができる

あてはまる	少しあてはまる	あまにあてはまらない	あてはまらない
30%	46%	22%	2%

④世界のできごとに興味・関心がある

あてはまる	少しあてはまる	あまにあてはまらない	あてはまらない
54%	32%	11%	3%

⑤日本のできごとに興味・関心がある

あてはまる	少しあてはまる	あまにあてはまらない	あてはまらない
55%	36%	9%	0%

⑥SDGsに興味・関心がある

あてはまる	少しあてはまる	あまにあてはまらない	あてはまらない
55%	32%	12%	1%

アンケート結果から話し合い活動が好きな生徒

の割合が高い一方で、多面的・多角的に思考したり、自分の考えを他者に説明したりすることを苦手としている生徒の割合が高くなっている。授業で話し合い活動は積極的に取り組めるが、その中身をもう一度吟味する必要があると感じた。

また、世界や日本のできごとに対して興味・関心が高い生徒の割合が多く、授業で学習したことをさらに自分で調べるなど、主体的に学習に取り組めるようなしなやかづくりも必要だと感じた。

今後は、社会的事象を多面的・多角的に考察し、それを自分の言葉で他者に分かりやすく説明するなど、思考力・判断力・表現力を育てていきたい。

文献

一般財団法人 Think the Earth(2020)未来を変える 目標 SDGs アイデアブック. 独立行政法人国際協力機構(JICA)

福田 仁(2020) “時間・空間認識を育てる授業づくり～SDGsの視点で世界の諸地域を探究する～” 鳥取大学附属中学校研究紀要 No.51,:21-24.

米田豊(2019) 意図的に時間軸と空間軸を組み込んだ社会科授業. 社会科教育. 4-7pp

中村仁(2020) “SDGsの視点で世界や日本の諸問題について考える～時間・空間認識を育てる探究的な学習の展開～” 鳥取大学附属中学校研究紀要 No.51,:35-42